

<研究名称>

救急外来受診後に帰宅となった高齢患者の 30 日以内の再受診パターン

<実施責任者及び実施担当者>

所 属 旭川医科大学大学院医学系研究科修士課程 看護学専攻

職 名 大学院生

氏 名 太田 文子

自施設所属 HCU・救急外来

職 名 看護師

<研究期間>

旭川赤十字病院倫理委員会承認後から 2022 年 3 月 31 日

<診療・研究の目的>

救急外来受診後に帰宅となった高齢患者の 30 日以内の再受診に関連する要因を明らかにし、再受診の理由についてパターンを見出して特徴を明らかにする。

<実施内容（方法）>

・研究の種類・デザイン 比較事例研究

・対象

一般社団法人 日本救急医学会 全国救命救急センター設置状況に掲載されている北海道内の中核都市の 1 病院(全次型救急医療体制)で行う。研究期間内に、救急外来を初回受診後に帰宅し、その後 30 日以内に再受診した全患者。再受診から 30 日以上経過し、再度救急外来を受診した者は「初回受診」として対象に含む。再受診した 65 歳以上の患者を分析事例、65 歳未満の患者を非分析事例とする。

・調査項目

調査手順は第 1～3 段階とする。

分析事例：救急外来を初回受診後に帰宅し、その後 30 日以内に再受診した 65 歳以上の患者

非分析事例：救急外来を初回受診後に帰宅し、その後 30 日以内に再受診した 65 歳未満の患者

第 1 段階

分析事例と非分析事例の属性は、全数調査による記述的調査を行う。

・調査項目～分析事例と非分析事例の属性

第 2 段階

分析事例 「事例ーコード・マトリックス」を参考にした質的分類・検討を行う。

第3段階

分析事例 再受診パターン別の群間比較を行う。

分析事例の属性については、分類したパターン別に群間比較

<危険性（副作用）等>

- ・予想される利益（効果）

本研究により対象者に直接の利益は生じないが、研究成果により将来の救急看護の進歩に貢献できる可能性がある。

- ・予想される不利益

本研究は、侵襲及び介入を伴わないため、対象者に予測されるリスクと不利益は発生しないと考える。対象者の個人情報には匿名化を行い秘密保護に十分配慮し、オプトアウトにより情報公開と拒否機会を保障する。

<倫理上問題になると考えられる事項>

本研究は、患者への侵襲や介入がなく、診療情報等を用いるため、研究の目的や実施情報を公開し、拒否の権利を保障する。オプトアウトについての文書を掲示し、研究参加拒否の申し出があった対象のデータは解析から削除し、直ちに破棄する。オプトアウト用の書類を作成し対象施設の倫理委員会に申請する。オプトアウトを用いた情報公開は対象施設のホームページ上に掲載する。

<問い合わせ先>

当研究に自分の試料・情報利用を停止する場合等のお問い合わせ

〒070-8530

旭川市曙1条1丁目1番1号

旭川赤十字病院 看護師 太田 文子

TEL 0166-22-8111

FAX 0166-24-4648